

# 流域治水プロジェクト2.0 推進に向けた取組

令和8年2月25日

令和2年までの10年間、1回も水害、土砂災害が発生しなかった市町村は、わずか41。

水災害は国民全員に関係し、これからリスクがますます高まろうとしている中、産官学民が協働して「流域治水」を推進し、社会の安全度を高めていくことが重要。

10年間で、水害・土砂災害が1回以上発生した市町村の数

**1700** (全市町村数:1741)

発生件数	市町村数	全国の市町村における10年間の水害、土砂災害の発生件数(平成23年~令和2年)
■ 10回以上	:1005	出典:水害統計(国土交通省)
■ 5-9回	:427	
■ 1-4回	:268	
□ 0回	:41	

気候変動により、これから洪水発生が増えることが懸念されている。

表:降雨量変化倍率をもとに算出した、流量変化倍率と洪水発生頻度の変化

気候変動シナリオ	降雨量	流量	洪水発生頻度
2℃上昇時	約1.1倍	約1.2倍	約2倍
4℃上昇時	約1.3倍	約1.4倍	約4倍

# 水害の頻発化【「流域治水」の基本的な考え方より(国土交通省 水管理・国土保全局)】

○短時間豪雨の発生が増加や台風の大型化等により、近年は浸水被害が頻発しており、既に地球温暖化の影響が顕在化しているとみられる。さらに今後、気候変動による水災害の激甚化・頻発化が予測されている。

【平成27年9月関東・東北豪雨】



【平成28年8月台風第10号】



【平成29年7月九州北部豪雨】



【平成30年7月豪雨】



【令和元年東日本台風】



【令和2年7月豪雨】



【令和3年8月の大雨】



【令和4年8月の大雨】



【令和5年7月の大雨】



【令和6年9月の大雨】



# 流域治水への転換

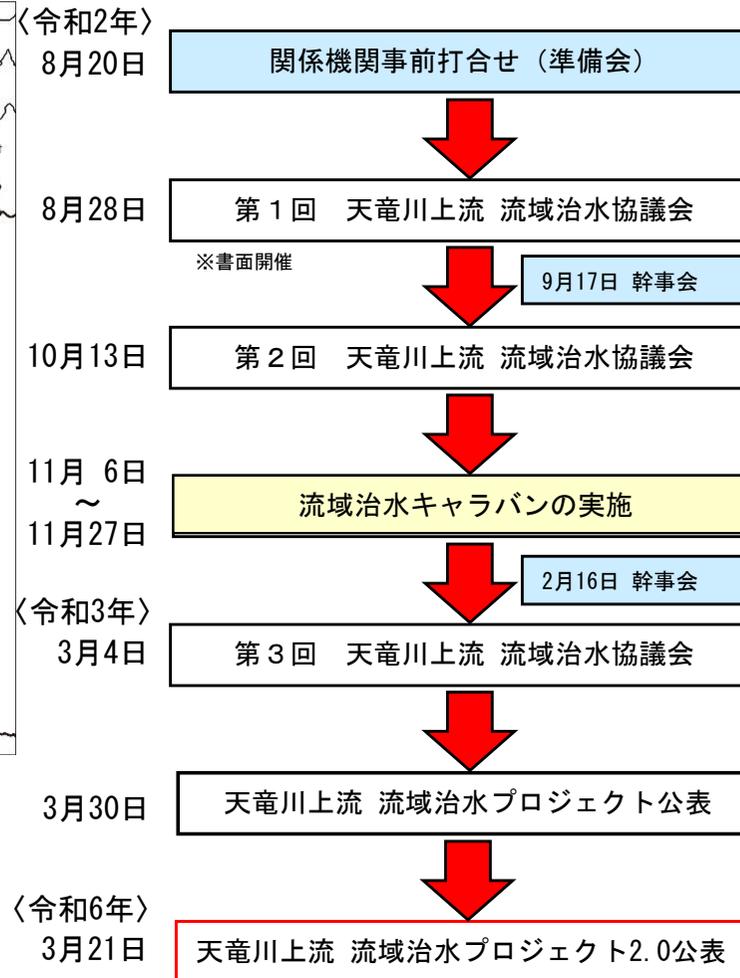
- 天竜川上流域において流域治水プロジェクトを策定するために令和2年8月に「天竜川上流 流域治水協議会」を設立。
- 令和3年3月に「天竜川上流 流域治水プロジェクト」を策定。
- 令和6年3月に「天竜川上流 流域治水プロジェクト2.0」に更新。

## 流域治水構成市町村



「天竜川上流 流域治水協議会」  
構成市町村

## 流域治水プロジェクト策定までの流れ



## 協議会

日時：令和2年10月13日（火）14:30～  
会場：伊那市役所1F多目的ホール  
出席：諏訪・上伊那・下伊那圏域の26市町村、  
長野県

国土交通省  
天竜川上流河川事務所  
天竜川ダム統合管理事務所  
三峰川総合開発工事事務所



18市町村から市町村長本人が出席



天竜川上流河川事務所長 長野県河川課長 伊那市長(左) 駒ヶ根市長(右)

# 流域治水とは【「流域治水」の基本的な考え方より(国土交通省 水管理・国土保全局)】

- 流域治水とは、気候変動の影響による水災害の激甚化・頻発化等を踏まえ、堤防の整備、ダム建設・再生などの対策をより一層加速するとともに、集水域(雨水が河川に流入する地域)から氾濫域(河川等の氾濫により浸水が想定される地域)にわたる流域に関わるあらゆる関係者が協働して水災害対策を行う考え方です。
- 治水計画を「気候変動による降雨量の増加などを考慮したもの」に見直し、集水域と河川区域のみならず、氾濫域も含めて一つの流域として捉え、地域の特性に応じ、①氾濫をできるだけ防ぐ、減らす対策、②被害対象を減少させるための対策、③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策をハード・ソフト一体で多層的に進める。

## ① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

**雨水貯留機能の拡大** 集水域  
 [国・市、企業、住民]  
 雨水貯留浸透施設の整備、  
 ため池等の治水利用

## 流水の貯留

河川区域  
 [国・県・市・利水者]  
 治水ダムの建設・再生、  
 利水ダム等において貯留水を  
 事前に放流し洪水調節に活用  
 [国・県・市]  
 土地利用と一体となった遊水  
 機能の向上

## 持続可能な河道の流下能力の維持・向上

[国・県・市]  
 河床掘削、引堤、砂防堰堤、  
 雨水排水施設等の整備

## 氾濫水を減らす

[国・県]  
 「粘り強い堤防」を目指した  
 堤防強化等

## ② 被害対象を減少させるための対策

**リスクの低いエリアへ誘導／** 氾濫域  
**住まい方の工夫**  
 [県・市、企業、住民]  
 土地利用規制、誘導、移転促進、  
 不動産取引時の水害リスク情報提供、  
 金融による誘導の検討

**浸水範囲を減らす**  
 [国・県・市]  
 二線堤の整備、  
 自然堤防の保全



## ③ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

**土地のリスク情報の充実** 氾濫域  
 [国・県]  
 水害リスク情報の空白地帯解消、  
 多段階水害リスク情報を発信

## 避難体制を強化する

[国・県・市]  
 長期予測の技術開発、  
 リアルタイム浸水・決壊把握

## 経済被害の最小化

[企業、住民]  
 工場や建築物の浸水対策、  
 BCPの策定

## 住まい方の工夫

[企業、住民]  
 不動産取引時の水害リスク情報  
 提供、金融商品を通じた浸水対  
 策の促進

## 被災自治体の支援体制充実

[国・企業]  
 官民連携によるTEC-FORCEの  
 体制強化

## 氾濫水を早く排除する

[国・県・市等]  
 排水門等の整備、排水強化

# 天竜川上流流域治水プロジェクト

天竜川（上流）水系流域治水プロジェクト公表【令和3年3月】

天竜川上流  
流域治水プロジェクト

～リニアを迎えて飛躍する伊那谷を守る流域治水対策～

天竜川上流 流域治水協議会

天竜川上流 流域治水協議会

岡谷市 飯田市 諏訪市 伊那市 駒ヶ根市 茅野市 下諏訪町  
富士見町 原村 辰野町 箕輪町 飯島町 南箕輪村 中川村  
宮田村 松川町 高森町 河南町 阿智村 下條村 売木村  
天龍村 泰阜村 喬木村 豊丘村 大鹿村 林野庁 中部森林管理局

長野県 国土交通省 中部地方整備局

オブザーバー ▶

農林水産省 農林水産省 関東農政局 気象庁 長野地方気象台 国立研究開発法人 森林研究・整備機構

詳細はこちらから

[https://www.cbr.mlit.go.jp/tenryo/think/ryuiki\\_tisui/pdf/ryuiki\\_pamphlet.pdf](https://www.cbr.mlit.go.jp/tenryo/think/ryuiki_tisui/pdf/ryuiki_pamphlet.pdf)

発行元 国土交通省 天竜川上流河川事務所

# 天竜川上流流域治水プロジェクト2.0

## 流域治水プロジェクト2.0【令和6年3月】 ～流域治水の加速化・深化～

- 気候変動の影響により当面の目標としている治水安全度が目減りすることを踏まえ、流域治水の取組を加速化・深化させる。このために必要な取組を反映し『流域治水プロジェクト2.0』に更新する。

### 現状・課題

- 2℃に抑えるシナリオでも2040年頃には降雨量が約1.1倍、流量が1.2倍、洪水発生頻度が2倍になると試算
- 現行の河川整備計画が完了したとしても治水安全度は目減り
- グリーンインフラやカーボンニュートラルへの対応
- インフラDX等の技術の進展

### 必要な対応

- 気候変動下においても、目標とする治水安全度を現行の計画と同じ完了時期までに達成する
- あらゆる関係者による、様々な手法を活用した、対策の一層の充実を図り、流域治水協議会等の関係者間で共有する。

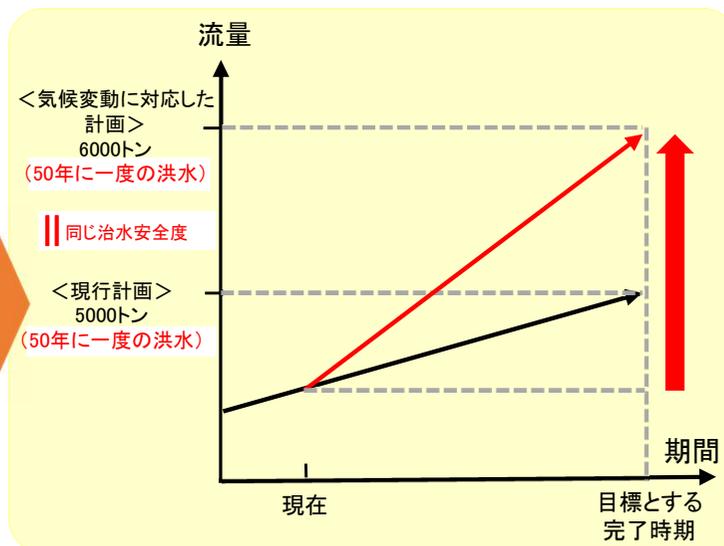
### 必要な対応のイメージ

気候変動シナリオ	降雨量 (河川整備の基本とする洪水規模)
2℃上昇	約1.1倍

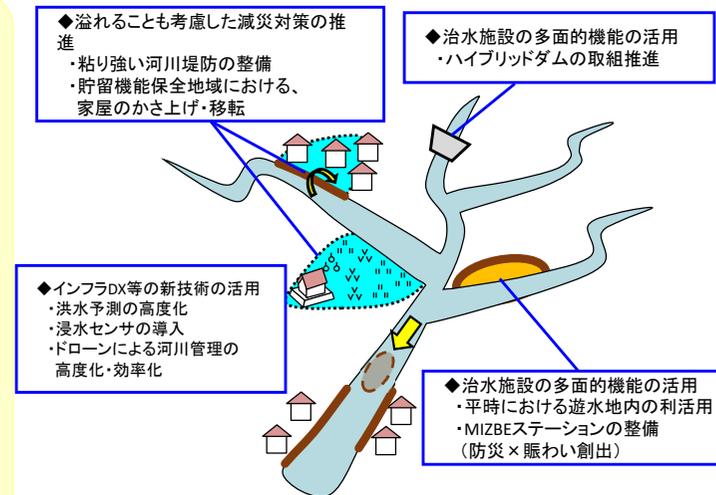
降雨量が約1.1倍となった場合

全国の平均的な傾向【試算結果】	流量
	約1.2倍

同じ治水安全度を確保するためには、**目標流量を1.2倍に引き上げる必要**



### 様々な手法の活用イメージ



※現行の計画と同じ完了時期までに目標とする治水安全度を達成するため、様々な手法を活用し、集中的に整備を進めることが必要

⇒現在の河川整備計画に基づく対策や流域における各取組を推進するとともに、気候変動を踏まえて追加で必要となる対策案の詳細については、更に議論を深めていく。

氾濫を防ぐ・減らす	被害対象を減らす	被害の軽減・早期復旧・復興
<p>○気候変動を踏まえた治水計画への見直し (2°C上昇下でも目標安全度維持)</p> <p>&lt; 具体の取組 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水位低下対策(河道掘削、樹木伐開)の更なる推進</li> <li>・堤防整備の更なる推進</li> <li>・既存洪水調節施設の最大限活用と洪水調節機能の強化</li> <li>・砂防堰堤等の更なる整備</li> <li>・横断工作物の更なる改築</li> </ul> <p>○流域対策の目標を定め、 役割分担に基づく流域対策の推進</p> <p>&lt; 具体の取組 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雨水貯留施設の整備、設置促進</li> </ul> <p>○多面的機能を活用した流域対策の推進</p> <p>&lt; 具体の取組 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「田んぼダム」の更なる推進</li> </ul> <p>○既存ストックの徹底活用</p> <p>&lt; 具体の取組 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存洪水調節施設の最大限活用</li> <li>・釜口水門放流量の増強</li> </ul>	<p>○溢れることも考慮した減災対策の推進</p> <p>&lt; 具体の取組 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開口部が有する遊水機能と排水機能の保持と伝承</li> </ul> <p>○溢れることも考慮した減災対策の推進</p> <p>&lt; 具体の取組 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災指針を含む立地適正化計画作成の更なる推進</li> </ul>	<p>○気候変動を踏まえた治水計画への見直し (2°C上昇下でも目標安全度維持)</p> <p>&lt; 具体の取組 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近年の出水も踏まえた水害の記憶の伝承</li> </ul> <p>○役割分担に基づく流域対策の推進</p> <p>&lt; 具体の取組 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要配慮者施設の避難に関する取組の更なる推進</li> <li>・マイ防災マップ、マイタイムラインづくり等の更なる推進</li> <li>・流域タイムラインの作成</li> </ul> <p>○多面的機能を活用した治水対策の推進</p> <p>&lt; 具体の取組 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山吹地区MIZBEステーション (防災×賑わい創出)</li> </ul> <p>○インフラDX等における新技術の活用</p> <p>&lt; 具体の取組 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浸水センサの設置・運用</li> <li>・三次元管内図による浸水想定の見える化</li> </ul> <div style="border: 1px solid red; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>・内外水統合の水害リスクマップの見える化</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・BIM/CIM適用による三次元モデルの積極的な活用</li> <li>・気候変動を踏まえた浸水想定区域図の作成</li> </ul>